

## 宮崎平野における津波災害履歴調査の必要性

復建調査設計(株) 正会員 ○高田 圭太  
 復建調査設計(株) 市原 季彦  
 復建調査設計(株) フェロー会員 福田 直三  
 九州工営(株) 伊集院弘尚  
 九州工営(株) 黒木 昌

### 1. はじめに

防災計画において、自然災害の規模・頻度がどの程度まで想定されるのかといった情報は必要不可欠なものである。2011年の東日本大震災の地震とそれに伴う津波は、1000年に一度というクラスの巨大な災害であった。日本各地には、こうした長期的な視点で評価すべき自然災害がある。

宮崎平野の津波災害記録のうち、最大級のものは日向灘沖を震源とする1662年に発生した外所(とんところ)地震の時に発生したものである。一方、宮崎平野の沖合の海底ジオスライサー調査においては、約2000年前の津波堆積物と思われる地層が見出されている<sup>1)</sup>。この津波は、1662年の津波より大規模のものであり、陸域にも大きな影響があったと考えられる。そこで、津波堆積物を見出すことを目的とした調査を宮崎市阿波岐原町猿野地区において実施した。

### 2. 調査方法

津波堆積物の識別・認定には、地質学的な詳細検討が必要である。特に堆積学的検討は重要であり、その検討が実施しやすいジオスライサー調査法はもっとも一般的な調査手法の一つである。今回用いたものは、幅0.4m、サンプルトレイ長6m及び4mのステンレス製ジオスライサーである。

採取した地層は、ねじり鎌を用いて表面を整形し、地層観察を実施した。特に堆積構造、生痕化石等に留意し、堆積環境の詳細検討を行った。更に、一部の試料については、珪藻化石の検討を実施した。また、堆積年代の検討を行うために、堆積物中の植物片等を用いた放射性炭素年代測定を実施した。その他、テフラ、土器片等を用いて、堆積年代の推定を行った。

### 3. 調査結果

ジオスライサー調査において、約15m間隔で4本の

キーワード：災害履歴調査, 津波堆積物, ジオスライサー調査

連絡先 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東3-12-24 復建調査設計(株)九州支社 TEL092-471-8324



図1 ジオスライサー調査位置図



図2 調査状況

地層試料を採取した。海側(東側)からAWS-1(浜堤上, TP5.9m, 試料長3.5m), AWS-2(浜堤間低地 TP4.8m, 試料長4.0m), AWS-3(浜堤間低地, 試料長1.8m), AWS-4(浜堤間低地, 試料長4.2m)である。そのうち、AWS-1及びAWS-2において、通常の堆積物とは考えにくい、イベント性の堆積物が認められたため、その層相を以下に示す。

